

### 3. 室賀信夫氏の日誌に関する室賀正氏のメモについて

鳴海邦匡（甲南大学）

ここに紹介する資料は、室賀信夫氏（1907－1982）の残した個人日誌から、ご遺族の室賀正氏により総合地理研究会（吉田の会）の活動に関わる項目について抜き書きされたものである。対象とされた日誌の執筆時期は、室賀正氏のまとめたレポート冊子の表紙によると、1938（昭和13）年から1945（昭和20）年となっているが、実際に抜き出された年月日は1939（昭和14）年1月から1950（昭和22）年3月にまでにおよんでいる。

さて、ここで総合地理研究会の活動に注目するのは、地理学者と軍隊というテーマが、外邦図という資料を理解するうえで必要な枠組みと考えるからである。そもそも、この方面への関心は、日本国内の大学に所蔵される外邦図の主要コレクションが、第二次世界大戦終戦直後に参謀本部から運び出されたものであり、その搬出に地理学者が関わっていたことに始まる。この点を明らかにするため、外邦図研究会では、当時の関係者にご来場頂いて第4回外邦図研究会を開催するとともに、関連の資料集として『終戦前後の参謀本部と陸地測量部一渡辺正氏所蔵資料一』（渡辺正氏所蔵資料集編集委員会編、2005）をまとめ、兵要地理調査研究会の活動に注目した。この第二次世界大戦末期に開催された兵要地理調査研究会には、小牧実繁を中心とする総合地理研究会のメンバーも関わっており、そこで彼らの活動が外邦図をいかに利用していたのかという点に関心を注ぐこととなった。そして、この点において総合地理研究会の主要メンバーであった室賀信夫氏の個人資料に注目することとなり、それらの資料を『日本地政学の組織と活動—総合地理研究会と皇戦会—』（小林・鳴海・波江、2010、以下『室賀資料集』）としてまとめ、報告することとなった。以下、その間の経緯について簡単に説明しておきたい。

室賀家に所蔵されていた室賀信夫関係資料の多くは、現在、京都大学文書館に収蔵されており、その整理作業が進められているところである。この文書館への寄贈にあたっては、京都大学図附属図書館に

受け入れられた古地図や地理関係資料とともに、松田清京都大学教授が室賀家の依頼をうけてご尽力されており、これについては、『室賀資料集』の「凡例」（鳴海・波江・小林、47-49頁）に詳しく記している。

こうして資料の受け入れ作業が進められていく一方、外邦図研究会の小林茂（大阪大学）は、2007（平成19）年の夏以降、室賀正氏と連絡を持つ機会を得ることとなった。それは『地図文化史上の広輿図』（海野、2010）の刊行にあたって、室賀信夫氏によるコメントの掲載の許可をご遺族から得るためのものであった。その際、京都大学文書館に寄贈された室賀信夫関係資料のなかから総合地理研究会に関する資料の出版についてご遺族のご理解を求めることになった。それは松田教授による「室賀信夫氏個人資料の寄贈」（2005）に接したことから調査を開始し、同じく外邦図研究のメンバーであった久武哲也（当時、甲南大学教授）がその学術的意義を高く評価したことなどに起因したものであった。その間の経緯については『室賀資料集』の「はしがき」（小林、i・ii頁）を参照して頂きたい。

この『室賀資料集』では、総合地理研究会の活動を理解するための資料として、室賀信夫関係資料から書簡を中心に紹介している。それは、これらの書簡が総合地理研究会という組織の具体的な活動を知るうえで貴重な資料として注目されるからである。そのほか、文書館に収蔵された室賀信夫関係資料のなかには、皇戦会との関わりを通じて作成された報告原稿の下書きなど、第二次世界大戦終戦以前における総合地理研究会の活動を知る資料も含まれている。他方、この種の資料の多くは、その性格ゆえ戦後、廃棄されてしまうケースが殆どであったと考えられる。それゆえ、室賀信夫関係資料の中に残されてきたこの種の資料は地理学者と戦争というテーマのみならず、さらに大きな枠組みのなかで考えるべき資料としての可能性を持つと評価している。

さて、室賀信夫氏関係個人資料の多くは京都大学文書館に寄贈されたことと先述したが、室賀家に残され

てきた全ての資料が文書館に寄贈されたということではない。例えば、ここに紹介するメモのもととなった個人日誌については、松田教授の判断もあって、個人的な内容を色濃く反映した資料であるとして寄贈対象の資料から除かれ、室賀家に残されることとなった。ただし、これらの残された資料群についても、現在はご遺族の希望もあって、京都大学文書館等への寄贈作業の準備を進めているところである。それは、この間、進められてきた室賀信夫氏関係資料の検討を通じて、その学術的な評価がさらに高まり、あらためて室賀家に残された個人資料の調査をした結果、それらの資料の学術的意義の高さが確認されたからである。

ところで、冒頭に触れたメモの存在については、すでに『室賀資料集』の「あとがき」(小林, 171頁)にて少し紹介しており、本稿はそれに続くものである。ご遺族の室賀艶子様のお話によると、生前、夫の室賀正氏が2004(平成16)年に大病を患って手術した以降、幾たびかの入院のうちに、病床でこれらの日誌を読まれたとのことであった。そして、最後に入院された2009(平成21)年1月の頃に手もとに置かれていた日誌(室賀信夫執筆、昭和20年、図1)とともにそのメモが保管されていたとのことであり、その後、同年3月18日に享年72歳で亡くなられた。残された日誌に数多く貼られた付箋から、室賀正氏が入院の度ごとに日誌を読んでこれらの付箋を付し、そこから抜粋して要点をレポート冊子に書き記したことがうかがえる。

ともかく、こうした室賀信夫関係資料をめぐる状況もあって、室賀正氏が晩年、総合地理研究会の活

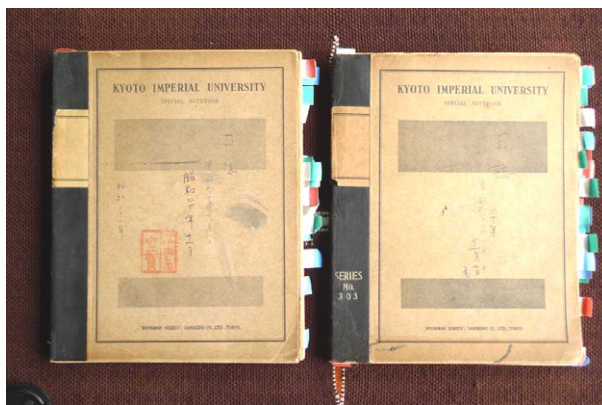


図1 室賀信夫氏執筆による日誌(昭和20年)

動に関心を寄せ、入院のうちに日誌を読まれたとのことであった。ご遺族の室賀艶子様のお話によると、室賀正氏が日誌に付箋を貼るおりに、「小林先生が見たら驚かれる」などと話されていたということであり、そのため、以下に紹介するメモは、総合地理研究会の活動を中心にまとめられることとなっている。このメモに記された内容で注目すべき点は、まず、『室賀資料集』で紹介した資料の存在しない時期の情報を数多く含んでいるということである。つまり今回紹介するメモは、書簡の確認されない1943(昭和18)年以降についても総合地理研究会の活動を記述し注目される。こうしたことから、日誌の紹介や分析の作業は今後の課題として、速報的にここに紹介することとした。

以下では、メモの内容について、『室賀資料集』に掲載した資料(47-139頁)と合わせながら少し紹介することとしたい。このメモの表紙によると参照した日誌は昭和13(1938)年からとのことであるが、メモの中身は昭和14(1939)年1月18日付で「仲小路彰 高嶋中佐」と、戦争文化研究所の中心となった歴史家の仲小路彰、皇戦会を創設した高嶋辰彦の両名の記述から始まっている。室賀信夫氏と仲小路彰との関わりがどのようなものであったのか関心がひかれるところであるが、ここではまず、書簡の確認された期間の記述をみていくこととする。

メモと書簡の内容が符合する点を次のように確認することができる。昭和14(1939)年7月30日付の項目では、「間野少佐より来信 7月分より研究費月額100円」と記述されている。これは『室賀資料集』にて紹介した皇戦会からの7月25日付の書簡(資料番号530-10、『室賀資料集』116頁・口絵4)の内容と符合していることが分かる。そのほか、同年9月21日付の「丸物の皇戦会(9月22日)」や、9月25日付の「高嶋大佐来洛 鈴木大将、中岡中将、紹介される」は、『室賀資料集』の目録に掲載する皇戦会からの書簡(資料番号529-7)によると、京都の丸物百貨店で皇戦展覧会を開催し、それに合わせて高嶋らが上洛した旨の記述があり符合している。また、メモによると高嶋辰彦は、昭和15(1940)年の5月23日、9月21日、11月22日にも京都に赴いて総合地理研究会に参加していることが確認され、この

間、積極的に関与している様子うかがえる。そのうち 11 月の会合については、「連隊長として出征」との記述も見られるように、送別としての意味もあったのであろうか関係者一同を撮影した記念写真（11月23日付、『室賀資料集』口絵1参照）の存在が確認される。そして12月に高嶋辰彦は参謀本部から台湾歩兵第一連隊長として海南島に赴任することとなり、結果的に皇戦会の活動から離れてしまうこととなる。

また、昭和16（1941）年3月3日付のメモによると、「小牧先生、野間君 昭和通商」と記述されている。ここに登場する昭和通商と総合地理研究会との関わりは、皇戦会による支援につづくものとして注目される。一方、残された書簡（『室賀資料集』55-61頁）は、昭和17（1942）年5月以降からの交渉を確認するものであり、それ以前からの交渉があったことを示している。ただし、地政学に関わる報告原稿の下書きのうち、「南方圏統治への地政学的試案」（資料番号74-23）の端書きには、「本編は昭和通商調査部の委嘱により昭和十六年十月八日 小牧教授まで提出するものなり」（資料番号23、『室賀資料集』55頁）と記されており、メモと同じく昭和通商との関わりが昭和16（1941）年には確認されること、それが小牧実繁京都大学教授を介したものであることを示唆している。

こうした報告原稿の記述をメモからみると、昭和14（1939）年10月20日付のメモには「フィリピン原稿 間野さんへ送る」と記していることが確認される。この間野俊夫少佐宛に送られた「フィリピン原稿」は、総合地理研究の原稿（室賀信夫担当）として昭和14（1939）年9月にまとめられた旨の端書きを有する「戦争経済遂行上より見たる資源を中心とする研究—フィリピン」の下書き原稿（資料番号10、『室賀資料集』50頁）に相当するものと考えられ、この原稿が皇戦会に対して送られたものであったことが分かる。その後、メモに度々記されている「政治地理ノート」は、こうした報告原稿に相当するものとも考えられるが、その判断は今後の検討課題としたい。

さらに、いくつか注目される点を紹介したい。総合地理研究会（吉田の会、吉田の例会）に関しては、

開催された年月日を記すほか、例えば、昭和19（1944）年8月13日付のメモに「地政学的基礎研究費3,000円」や、昭和20（1945）年7月14日付メモに「小牧先生来訪 皇戦会は事業を中止に整理費1,000円ほど送って来た由なり」とあるように組織の活動にかかる経費に関する記述もみられる。特に前者の3,000円は高額な予算であり、また東条内閣総辞職後という時期も含めてその出所に関心もたれられるところである。また、昭和19（1944）年の秋頃からは、総合地理研究会の組織の体制について、何らかの変化を模索している様子うかがうことができ、この点も興味深い。さらに、すでに指摘されているように兵要地理調査研究会との関わりをみると、昭和20（1945）年5月29日付メモに「川上喜代四氏来訪、吉田の会に参謀本部の渡辺少佐が来て我が本土の地理的研究を依頼 16日までに提出とのこと」との記述が確認され、渡辺正少佐が総合地理研究会に赴いて直接、「本土の地理的研究」の作業を依頼し、その成果を16日（6月?）までに提出することを要求していたことが記されている。

これまで簡単に見てきたように、メモに記された内容は、総合地理研究会の組織と活動を具体的に知るうえで貴重な情報を提供するものであることが分かった。次の作業としては、早急に残された日誌の調査と分析を行い、『室賀資料集』において紹介した、書簡や報告原稿とのすりあわせを行う必要があると考えている。

## 文献

松田清（2005）「室賀信夫氏個人資料の寄贈」『京都大学文書館だより』8号、5-6頁。

渡辺正氏所蔵資料集編集委員会編（2005）『終戦前後の参謀本部と陸地測量部—渡辺正氏所蔵資料集—』大阪大学文学研究科人文地理学教室、計124頁。

久武哲也（2005）『「兵要地理調査研究会」について』（渡辺正氏所蔵資料集編集委員会編『終戦前後の参謀本部と陸地測量部』大阪大学文学研究科人文地理学教室）5-19頁。

海野一隆著、久武哲也・小林茂監修、要木佳美編集（2010）『地図文化史上の広輿図』東洋文庫、400頁+図版4頁。

小林茂・鳴海邦匡・波江彰彦編（2010）『日本地政学の組織と活動—総合地理研究会と皇戦会—』大阪大学大学院文学研究科人文地理学教室、口絵 4+v+171 頁。

田中宏巳（2010）「皇戦会と「吉田の会」—高嶋辰彦の活動を通して—」（小林ほか編『日本地政学の組織と活動』大阪大学大学院文学研究科人文地理学教室） 27-43 頁。

#### [謝辞]

本稿をまとめるにあたっては、ご遺族の室賀艶子様のお世話になりました。末尾になりますが記して感謝申し上げます。

## 室賀正氏のメモ

表紙「皇戦会

京都帝国大学 地理学教室

総合地理研究会（吉田の会）

陸軍参謀本部第四部

昭和十三年～二十年日誌

室賀信夫

### No1 (10)

昭和 14-1-18 (水) 仲小路彰、高嶋中佐

14-5-2 (火) 政治地理ノート

14-7-8 (土) 吉田別宅 小牧 米倉 松井、日独伊軍事同盟

14-7-30 間野少佐より来信 7 月分より研究費月額 100 円

「14-7-28 発信と推定されるもの」(欄外)

14-7-30 小牧先生へ電話 皇戦会の件、間野少佐へ手紙、

14-8-17 吉田のうちに便せしめ

14-9-21 丸物の皇戦会 (9 月 22 日)

14-9-25 高嶋大佐来洛 鈴木大将、中岡中将、紹介される

14-10-20 フィリピン原稿 間野さんへ送る

15-3-9 中岡中将に手紙

### No2 (10)

昭和 15 年 5 月 23 日 高嶋大佐来洛 (吉田会)

15-9-21 // 来会 (総合地理の会)

15-11-22 // 来洛 ( 聯隊長として出征、後任渡辺大佐)

15-12-3 東上 (学士会館にて)

16-12-11

16-3-3 小牧先生、野間君 昭和通商

17-4-14 三上君より吉田の会の案内状

17-4-21 政治地理ノート構想

17-4-22～24 政治地理ノート

17-4-26～27 //

No3 (10)

昭和 17-5-3~6 政治地理ノート

17-5-12~13 //

17-5-30 吉田の会

17-5-31 中岡中将へ発信 政治地理ノート

17-6-14 きのうち吉田の会

17-6-30 6/24~29 東京 6/25 昭和通商(夜、  
間野中佐) 6/27 皇戦会

17-12-12 吉田の会

18-1-20 間野中佐 (1/10~1/20 東行

18-1-23 吉田の会

18-10-9 川上健三、地政学図説

No4 (10)

昭和 18-10-24 吉田の例会

18-12-1 (11/26 青山皇戦会 間野中佐 中岡中  
将) (総裁官邸晚餐会)

18-12-5 吉田の会、中岡閣下

18-12-18 (12/27 吉田の会発表

18-12-28 吉田の会、アメリカにつき発表

19-2-29 伏見憲兵隊田中准尉来訪 浅井得一氏  
何かの事故

19-2-27 間野中佐からの来信で浅井得一氏や  
った事件は大問題

19-2-25 (野間君より来信 浅井得一君の件

19-4-3 野間君来訪、浅井得一君の件

19-5-30 小牧先生来訪 浅井得一君のお話

No5 (10)

昭和 19-6-6 川上喜代四氏来訪 滋賀航空隊転勤

19-6-8 //

19-7 5 (水) 浅井辰郎君と同じ隊 (満州にも応  
召)

19-7-20 東条内閣総辞職

19-8-13 地政学的基礎研究費 3,000 円

19-8-25 野間君より来信 吉田の会のこと

19-9-17 京大から陸地測量部が秘となったか  
ら書出せとのこと

19-9-18 京大へ // の地図の件の返事

19-10-7 野間君来訪、浅井君の話 吉田の会の  
話 (新体制の件)

19-10-18 浅井辰郎君 (満州にも応召中)

No6 (10)

昭和 20-1-6 野間君来訪 昭和通商

20-1-27 在郷軍人

20-1-28 軍の腐敗 陸海の確執

20-1-31 野間君 吉田の会の事にて来信

20-2-13 野間君来信、吉田の会

20-2-15 // 返信 //

20-2-17 // 宛 (吉田の会之出すもの)

20-2-18 // // (吉田の会員宛にて

20-2-27 // 来信 吉田の会の刷新

20-3-3 // // // 修復

No7 (9)

昭和 20-3-7 野間君を経て吉田の会にて出す農業地  
理要目

20-5-2 ヒトラー総統

20-5-3 // 死

20-5-17 間野さん、大佐となり (支那よりかえ  
り) 郷土部隊長に)

20-5-29 川上喜代四氏来訪、吉田の会に参謀本  
部の渡辺少佐が来て我が本土の地理的研究  
を依頼 16 日までに提出とのこと

20-6-2 野間君 吉田の会について来信

20-6-6 戦況

20-6-20 小牧先生より来信 浅井君刑期 7 年にな  
りし由

20-6-26 本土上陸

No8 (9)

昭和 20-7-14 小牧先生来訪 皇戦会は事業を中止に  
整理費 1,000 円ほど送って来た由なり

20-7-27 ポツダム会議

20-8-9 戦況

20-8-10 研究室貴重品、大覚寺に疎開したよう  
だ

20-8-15 終戦

20-8-30 野間君によると小牧先生は甚だ動揺  
しておられる

20-10-4 // 手紙によると研究室の連中は終

戦以来気抜け

20-10-5 // 来訪、教室の近状報告なれど小牧先生の悪口に

// 吉田の会の本を売って一  
万円ほどに成 野間君保管中との話

#### No9

昭和 20-11-11 昭和通商 8 月末解散、鈴木福一氏は  
日銀の調査部に入った

20-10-12 小牧先生が室賀の休職のこと 3 月  
ごろまで待てとのこと

20-10-15 参謀本部軍令部、今日廃止

20-10-23 小牧先生辞表（辞職

20-10-25 小牧先生来訪、室賀の休職は 3 月ま  
で

20-11-1 マッカーサー愛国主義者 学校より追  
放命令

20-11-9 財閥解体に関するマッカーサー司令  
部の指令が（東條さん三菱から家を贈られ  
1,000 万円もらった）

20-11-24 夕方 5 時のニュース マッカーサー  
司令部食料輸入許可、小牧先生辞表提出

20-11-25 小牧先生来訪（22 日辞表）

20-11-28 川上健三君 外務省に入った。

#### No10

昭和 20-12-1 我が国の陸海軍省は今日からなくな  
った

20-12-6 戦争犯罪人として近衛さんが引っぱ

られた

20-12-16 近衛文麿公は自殺す、自殺すべき鈴  
木貫太郎は未だぬくぬくと生きている

20-12-21 小牧先生辞職の件

20-12-24 野間君よりのハガキ辞表の件

21-1-15 地理学教室 留任、辞表など

21-1-22 間野さん（20、5-17 付 大佐）

21-2-15 川上健三君来訪 三上喜代四来訪

21-3-2 学校 小牧 室賀 野間の講義取止め

21-3-22 教室総退陣の新聞記事

#### No11

昭和 21-5-3 文学部より退職金 ¥2925 円

21-8-19 川上喜代四君来訪 健三君の伝言 賠  
償会議の領上保金

（総合地理研究会）

22-3-9 「A」\*氏よ（原文まま）内容証明来た  
り（吉田の家 元皇戦会）家を返したるにそ  
の後「B」\*さんが居据っているのだらうと  
思う、その件で野間君と岡本君に問合状をか  
く

22-3-29 「A」\*氏子息来訪 「B」\*さんの借  
家の件 「B」\*さんが家賃の供託に室賀の名  
を用ひ印を偽造しているには驚いた

※上記のうち、特に総合地理研究会の組織と活動に直接関  
わらない人物については、その名前を伏せ、「A」「B」  
と記すこととした。